

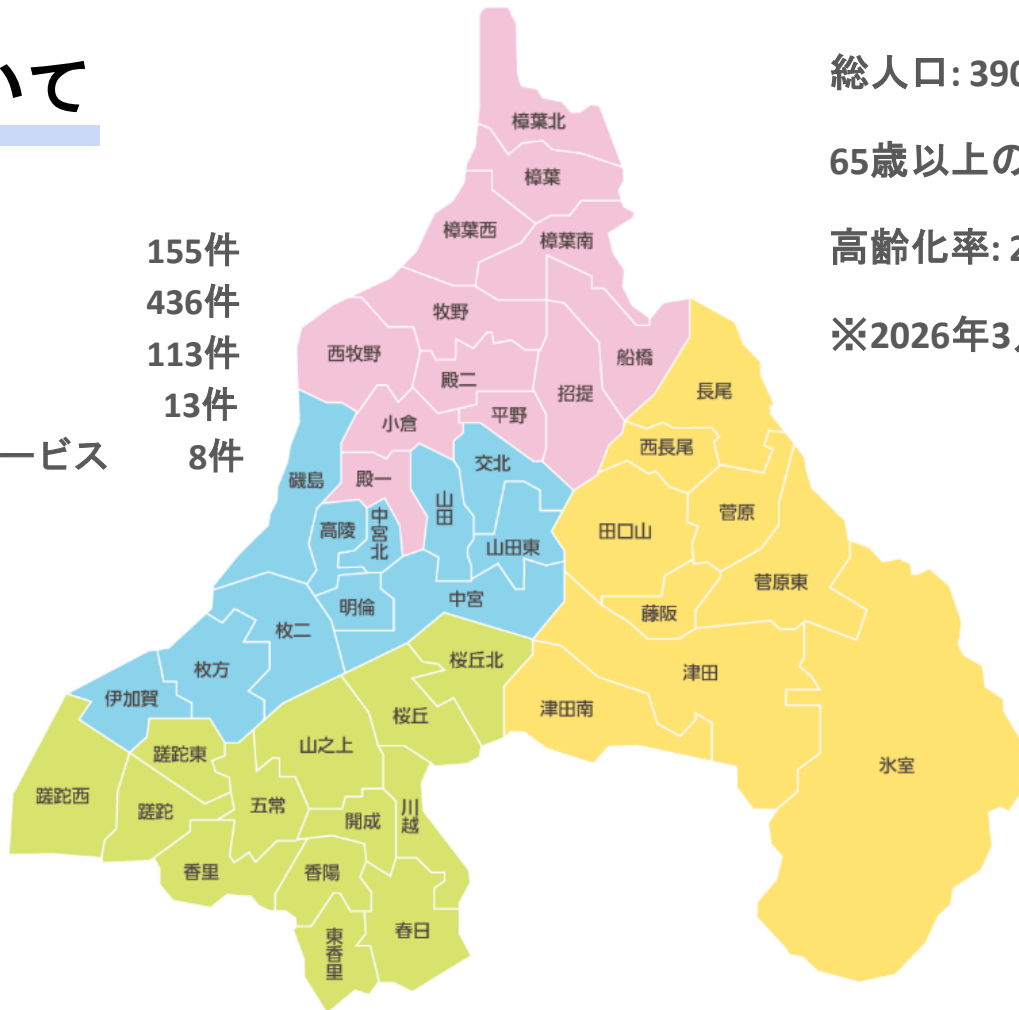
枚方市における ケアプランデータ連携システム 活用推進モデル地域づくり事業

2026年3月31日

枚方市について

居宅介護支援	155件
居宅サービス	436件
地域密着型サービス	113件
地域包括支援センター	13件
介護予防・総合事業サービス	8件

※2026年3月19日現在



総人口: 390,602人

65歳以上の人口: 114,506人

高齢化率: 29.3%

※2026年3月1日現在



枚方市について（事業実施前）

大阪市	都島区(7)	福島区(13)	此花区(7)	西区(4)	港区(3)	大正区(7)	天王寺区(6)	浪速区(6)	西淀川区(14)	東淀川区(14)
	東成区(8)	生野区(13)	旭区(4)	城東区(10)	阿倍野区(6)	住吉区(12)	東住吉区(18)	西成区(9)	淀川区(12)	鶴見区(8)
	住之江区(8)	平野区(16)	北区(6)	中央区(4)						
堺市	堺区(29)	中区(20)	東区(12)	西区(33)	南区(11)	北区(13)	美原区(21)			
市町村	池田市(20)	泉大津市(1)	泉佐野市(9)	和泉市(19)	茨木市(31)	大阪狭山市(4)	貝塚市(1)	柏原市(7)	交野市(15)	門真市(15)
	河内長野市(38)	岸和田市(25)	四條畷市(19)	吹田市(50)	摂津市(14)	泉南市(15)	高石市(7)	高槻市(63)	大東市(7)	豊中市(22)
	富田林市(12)	寝屋川市(16)	羽曳野市(4)	阪南市(3)	東大阪(46)	枚方市(37)	藤井寺市(8)	松原市(17)	箕面市(16)	守口市(8)
	八尾市(9)	三島郡島本町(12)	泉南郡熊取町(5)	泉南郡田尻町(0)	泉南郡岬町(0)	泉北郡忠岡町(0)	南河内郡河南町(0)	南河内郡太子町(0)	南河内郡千早赤阪村(1)	豊能郡豊能町(1)
	豊能郡能勢町(1)									

業務委託前の導入件数
(WAMネット掲載数)

37 件

普及率
(分母を725件とした推計)

5 %

2025年9月2日付 最新公表分

枚方市について（事業実施後）

大阪市	都島区 (27)	福島区(28)	此花区(20)	西区(12)	港区(31)	大正区(12)	天王寺区 (23)	浪速区(19)	西淀川区(25)	東淀川区 (35)
	東成区 (29)	生野区(42)	旭区(23)	城東区(35)	阿倍野区 (31)	住吉区(40)	東住吉区 (53)	西成区(49)	淀川区(55)	鶴見区(28)
	住之江区 (33)	平野区(48)	北区(22)	中央区(12)						
堺市	堺区(66)	中区(51)	東区(23)	西区(64)	南区(51)	北区(37)	美原区(29)			
市町村	池田市 (40)	泉大津市 (5)	泉佐野市 (50)	和泉市(41)	茨木市 (99)	大阪狭山市 (23)	貝塚市(27)	柏原市(8)	交野市(42)	門真市(37)
	河内長野市 (71)	岸和田市 (69)	四條畷市 (25)	吹田市 (190)	摂津市 (21)	泉南市(29)	高石市(17)	高槻市 (118)	大東市(11)	豊中市 (228)
	富田林市 (40)	寝屋川市 (81)	羽曳野市 (25)	阪南市(13)	東大阪市 (150)	枚方市 (184)	藤井寺市 (23)	松原市(40)	箕面市(29)	守口市(32)
	八尾市 (58)	三島郡島本 町(20)	泉南郡熊取 町(13)	泉南郡田尻 町(0)	泉南郡岬町 (15)	泉北郡忠岡 町(3)	南河内郡河 南町(4)	南河内郡太 子町(1)	南河内郡千早 赤阪村(1)	豊能郡豊能 町(6)
	豊能郡能 勢町(4)									

令和7年度の取り組みについて

○ 事業内容：

市内のサービス事業所に対して、ケアプランデータ連携システムの導入の伴走支援を実施

事業所に伴走者が直接訪問してシステムの導入を支援

※「枚方市の事情を知る担当者」が、システムの導入について研修を受けた後に、事業所を訪問して伴走支援を実施する「現場密着型の支援体制」を構築した

○ 参加（申込）事業所数：89件

○ システム導入済み事業所数：180件

（伴走支援：75件 その他：105件）

※導入事業所は重複する事業所番号をカウントしていないためWAMNETと異なります。

※2026年3月19日現在

※伴走支援開始に先だって、説明会を開催（プログラム）

- ・ ケアプランデータ連携システムについて
- ・ 伴走支援の概要について

※事業の宣伝（各種チラシなどの配布）

今がチャンス!!伴走支援が受けられます


ケアプランデータ連携システム活用促進モデル地域づくり事業

「ケアプランデータ連携システム活用促進モデル地域づくり事業」とは、厚生労働省が実施している介護サービスのDX（デジタル・トランスフォーメーション）推進の一環として、介護ソフト関連のケアプラン機器のデータ連携を通じて、地域全体の介護の質・効率を高めることを目的とした実証的なモデル事業です。

ケアプランデータ連携システムのフリーパスキャンペーン

現在、「フリーパスキャンペーン」を実施中です。申請日から1年間、ケアプランデータ連携システムを無料でご利用いただけます。「導入コストが気になる」「舊の事業所を譲り受けたいけど、まっかげがない」そのようなお声にお応えし、業種改善の第一歩をライセンス料のご負担なく始められるキャンペーンです。


「外がやらないと意味がない」というのは、もう過去の話です。地域で導入率が25%を超えれば、優待が一気に上がり、システム普及が加速します。支援の輪が広がることで、地域がは確実に変わります。最初の一步は不安かもしれませんが、サポートがあれば前に進めます。仲間と共に、今こそ地域で声をはり、一歩を踏み出しましょう。



安心の遠隔サポートサービス

遠隔操作ツール「TeamViewer（チームビューア）」を活用し、全国各地にいるタカノのスタッフが、ケアプランデータ連携システムの導入から操作方法、データの出力まで一連の流れを丁寧にサポートいたします。目の前のパソコン画面を一緒に見ながら操作を導かれるので、「やり方がわからない」「触るのが不安」といった悩みも即座に解決。不安を安心に変える多人数体制で、地域でのシステム普及を支援いたします。まずはお気軽にご相談ください。

サポートデスク専用ダイヤル
導入の相談・操作の相談
お気軽にご連絡ください
050 8894 9502



枚方市
A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q・R・S・T・U・V・W・X・Y・Z

※本事業は、一般社団法人枚方市介護サービス事業所協会の協賛事業として実施します。枚方市サポートデスクは、NPO法人タカノが委託して実施します。 枚方市サポート

ケアプランデータ連携システムの導入までの流れ

1
パソコンの確認

2
介護ソフトの確認

3
電子請求用IDの確認

4
製品のダウンロード

5
電子証明書等のインストール

6
利用申請

Windows10以上でインターネットに接続できる環境をご用意ください。

ご利用中のソフトが「ケアプラン事業社」に対応しているかを確認してください。

「PK」で始まる有効なパスワードを確定し、IDを心臓してください。電子請求に使用するものです。

専用サイトから「製品ダウンロード」申し込みを行います。

電子証明書、鍵を準備し、住所等の場合は発行済の届出済印行のうえ原本にインストールします。

利用状況WEBサイトにアクセスし、ID・パスワードを入力して利用申請を行ってください。

かんたん・あんしん・さくげんで、介護現場の業務を効率化!

1 かんたん 計画書（第1表・第2表・第3表）や提供票（第6表・第7表）などのCSVファイルをドラッグ＆ドロップするだけで連携完了。転送やFAXの手間を省き、業務をスマートに。

2 あんしん 記載ミスや重複不備が減少し、手戻りが大幅に軽減。介護報酬請求と関係の高いセキュリティ方式を採用しており、安全性も確保。導入から運用まで、安心のサポート体制が整っています。


3 さくげん やりとりにかかる時間を約3分の1に削減できる研究結果も、月額1,750円のご負担で、年間約60万の業務コスト削減が見込めます。費用対効果のシミュレーションも公開中。

伴走支援を受けた自治体様やサービス事業所様の声

1 「点ではなく面」で広がる必要性を感。今だからこそ導入！
法人内の複数事業所で連携して導入できたのは、支援体制と行政の情報の連携があったからこそ。情報連携の真の価値を感じています。
（法人事務部長 / 地域統括責任者）

2 「うちには難しいか」と思っていたけれど、伴走支援のスタッフが来てくれて、一緒に操作を確認してくれたおかげで導入できました。「できた」という自信もつきました。
（デイサービス 管理責任者）

3 「初期だけではなく、寄り添い型支援」が鍵でした。
データ連携の重要性は伝えましたが、実際に導入が進んだのは、サポートチームの伴走支援があったからこそ。個別訪問や説明会開催が地域の空気を変えました。
（自治体 担当係長）

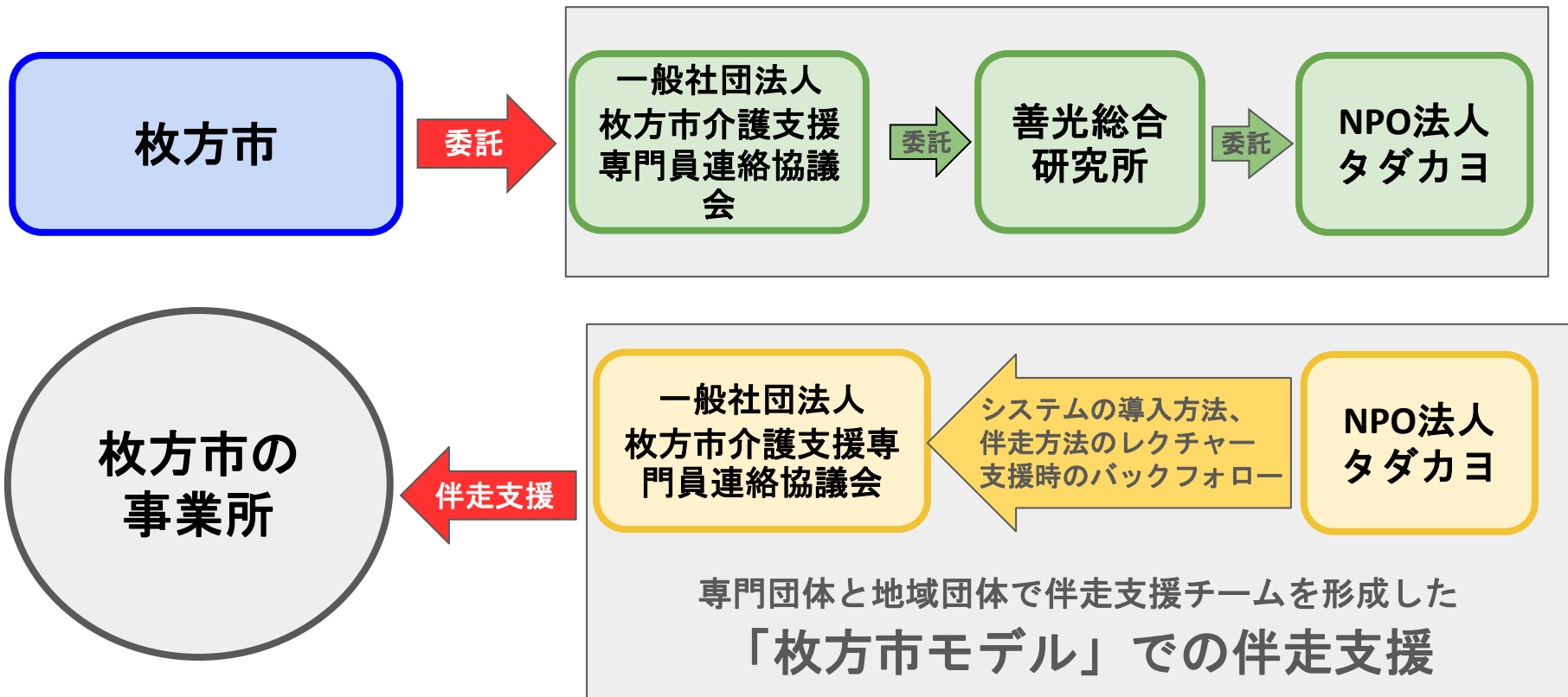


枚方市でも伴走支援を実施いたします。
伴走支援をご希望をご希望、検討の方は
必ずお申し込み、お申し込みください。
＝申し込み先＝ 〒412-8501 枚方市
TEL: 050-8894-9502 MAIL: shokun@shokun.jp

申込先情報入力作業中！
申込先情報を入力して、ケアプランデータ連携システムの導入をスタート
してください。申込先情報を入力してください。
申込先情報入力作業中！
申込先情報を入力して、ケアプランデータ連携システムの導入をスタート
してください。申込先情報を入力してください。
申込先情報入力作業中！
申込先情報を入力して、ケアプランデータ連携システムの導入をスタート
してください。申込先情報を入力してください。

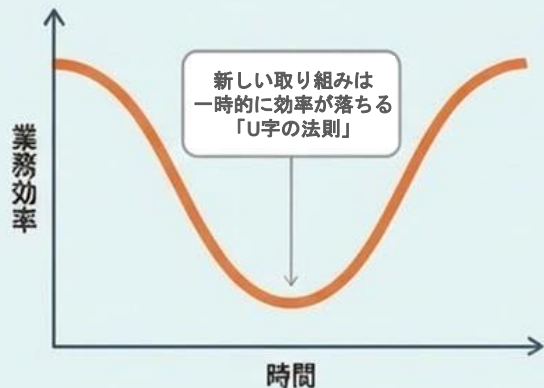
※本事業は、一般社団法人枚方市介護サービス事業所協会の協賛事業として実施します。枚方市サポートデスクは、NPO法人タカノが委託して実施します。

令和7年度の取り組みについて



令和7年度の取り組みについて

課題：導入初期に訪れる「効率低下」の壁



慣れない操作や体制構築により、導入初期は「かえって手間が増えた」と感じやすい。



現場のプレッシャーがプロジェクトを停滞させる
枚方市、プロジェクトチーム、現場の連携が不足すると、導入が失敗に終わるリスクがある。

解決策：枚方市流「現場密着型」伴走支援

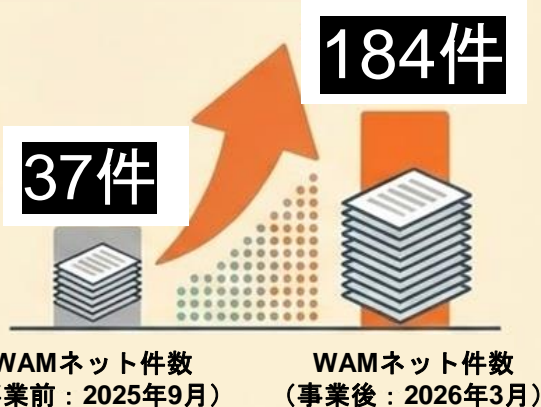


「寄り添い型支援」で説明会では動かない層を後押し

個別の悩み（操作方法、業務フロー等）を現場で解決し、導入のハードルを下げる。



成果：短期間での普及実績



事業所ヒアリング等で判明した課題と今後の展望

課題1：未導入事業所との「二重運用」による負担

多くの事業所から「連携先が未導入のため、結局FAXで送るしかない」という切実な声が聞かれた。データで送る事業所とFAXで送る事業所が混在する「二重運用」の状態となっており、一括で処理できないため、過渡期においてはかえって管理の手間が増えてしまっている部分があった。

課題2：システム操作・仕様の煩雑さ（一括処理の制限）

介護ソフトからケアプランデータ連携システムへデータを取り込み・出力する際、「複数事業所を一括で処理できず、1事業所ずつ手作業で選択する必要がある」など、仕様上の煩雑さが指摘されている。日々の忙しさの中で、この不便さが稼働のボトルネックになっている。

課題3：既存の介護ソフト間連携とのギャップ

「カイポケ」など、既にシェアの高い介護ソフト内での独自のデータ連携機能で約9割のやり取りが完結してしまっている事業所も存在する。そのため、本システムを使うメリットを実感しにくく、今後はシステム自体が既存ソフトと同じくらいシームレスに機能することが強く期待されている。

これらの結果から、システム導入はあくまでスタートラインに過ぎず、真の生産性向上を果たすためには、枚方市の13圏域・4ブロックを活用して未導入事業所を巻き込む（面での普及を急ぎ二重運用を解消する）とともに、現場の声を国やベンダーに届け、使い勝手を改善していくための継続的なアプローチが必要ではないかと考えられる。

事業の振り返りと今後の課題

○振り返り

- ・ 説明会やチラシ等でのケアプランデータ連携システムにかかるメリットの周知と導入にかかる伴走支援の両輪で事業を実施することで、幅広い層の事業所が導入に至った。
- ・ 自治体と市内のケアマネジャー等で構成される介護支援専門員連絡協議会が連携し事業を運営することにより、介護事業所の信頼度が向上しスムーズな伴走支援等につながった。

○課題

- ・ 好事例を収集し横展開することにより、事業所間連携による連鎖的・自動的導入の推進を図ろうとしたが、現時点では明確な生産性向上事例を収集することができなかった。
- ・ 介護事業所の生産性を最大限向上させるためには、100%の事業所がシステムを導入し連携することが求められるが、現状は25%に留まっており、システム導入のメリットを感じていない事業所が多数存在しているため、更なる普及が必要。
- ・ システムの導入は行ったが活用していない事業所も存在するため、実質的な活用や連携の深化が求められる。